学校支援を積極的に進めよう

～子どもを守り、育てるＰＴＡ活動を通して学校支援を考える～

西尾市立幡豆中学校ＰＴＡ

１　学区及び学校の概要

本校は西尾市の東に位置し、海と山に囲まれ、自然に恵まれた環境である。春になると潮干狩りで賑わい、夏は多くの海水浴客が訪れる。冬は国指定重要無形文化財であり、約1200　年の歴史をもつ「鳥羽の火祭り」が盛大に行われる。幡豆小学校と東幡豆小学校の２つの校区からなり、全校生徒300 名弱である。高校進学後の足として重要な「名鉄にしがま線」存続にむけた行事があり、保護者も運営に協力的である。

２　研究のねらい

本校では、登校時の交通立哨や夏休みの除草作業、体育大会駐車場誘導、シーサイドウ　ォーク立哨（校区内を中心に約　20　キロを全校で歩く行事）などで、子どもたちの安全面や環境面での支援のために、多くのＰＴＡ会員が参加協力している。先生方と保護者双方の協力が互いの意思疎通につながる。保護者参加行事をより充実させることを通して、学校支援につなげることをねらいとした。

３　研究の仮説

保護者が参加する行事の充実を図ることで、先生・保護者相互の意思疎通を深めれば、学校運営のための支援につなげることができるであろう。

４　研究の方法

上述の中から、登校時の交通立哨と夏休み除草作業、シーサイドウォーク立哨の３つの行事を研究の対象とする。行事の充実を図るために、ＰＴＡ代議員会（各通学地区の代表から構成される。本年度 23 名。）での意見交換と生徒や先生方からの振り返りから、その効果を検証する。

５　研究の実践

（１）　登校時の交通立哨

登校時にＰＴＡ代議員と先生が通学路の立哨を行う。登校時の立哨は年５回計画されているが、そのうちの２回にＰＴＡが協力している。本校は自転車通学がほとんどで、子どもから、「渡るとき、交通事故が起きないように見守ってくれていてうれしい。」という声があった。立哨時に保護者と先生が声をかけ合い、子どもたちの安全を守る中で、気をつける点などの情報を共有することができた。

（２） 夏休みの除草作業

２学期の体育大会前に除草作業は欠かせない。本年度の作業は保護者90名、生徒160名、教職員25名で行った。保護者の作業の手際よさで、たった30分の活動でも運動場がすっきりとした。また、保護者の中には子どもたちに指示を出してくれる方がおり、子どもたちの動きも機敏になった。先生から「保護者の方のおかげで、整った環境で２学期が始められるのでありがたい。」という言葉をもらい、やりがいを感じた。

除草作業後に行った代議員会で、作業に関する意見交換を行った。多くの意見があり、関心の高さがうかがわれた。今後もこのような意見交換の時間をもつことが、学校支援につながると考える。

（３）シーサイドウォーク立哨

毎年 12 月に「名鉄にしがま線」の沿線を中心に約 20 キロを全校生徒が歩く。場所によ っては、歩道と車道の区別がない区間を歩き、先生方だけではカバーできないため、保護者の協力が不可欠な行事である。保護者から立哨ボランティアを募集し、毎年 40 名ほどが協力している。

昨年度は、子どもから「危険な場所や、迷いそうな場所では、（保護者が）誘導してくれて助かる。」「『がんばって』と声をかけてくれるのがうれしい。」という声があった。立哨中の保護者と、子どもたちと共に歩いている先生が情報交換する場面もあり、保護者が参加意義を感じ、協力して行事を成功させようとする姿が見られた。

６ 研究の考察

３つの行事を通して、多くの保護者の理解が活動を盛り上げ、学校支援につながっていると考える。活動中の保護者と先生方との何気ない会話は貴重である。互いに人となりや想いを察して理解が深まることは、ＰＴＡ活動の最大のメリットである。

７ 成果と今後の課題

交通立哨をした保護者から「挨拶をしてくれてうれしい。」「交通事故が心配なので、見守ることができる。」などの声が聞かれた。除草作業や昨年度立哨に参加した保護者からは「我が子がどのような子と仲がよいのかが見られてよかった。」「普段、家では見られないような笑顔がたくさん見られるから楽しい。」という行事に対する肯定的な感想があった。先生方からは「心配な箇所に立ってくださるおかげで、生徒たちの指導に専念できる」「保護者の方と話す機会ができて、生徒の別の面が知れて良かった。」などの声が聞かれた。行事を大切にして、ＰＴＡとして参加協力を継続する価値を確認することができた。ＰＴＡによる学校支援に、今後も取り組んでいきたい。

一方、「４月のまだ新入生の自転車登校が不慣れな時に交通立哨をやるべきだ。」「除草作業は熱中症対策として、日時を再検討すべきだ。」という意見があり、今後、代議員会を通して検討していきたい。